

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

両城中学校区 校番 19 学校名 呉市立両城小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・ 知・徳・体いずれも適切に設定されていると思う。 ・ 設定された指標は適切で、効果を見取るうえでも捉えやすい。 ・ 児童が目標を持ち努力することができると思う。
目標達成のための方策の適切さ	A	・ 方策に時・場・内容をきちんと決めている。 ・ 集団の中で役割を持たせ、力を発揮した喜びを持たせるようにしている。 ・ まず自分が考えることを大事にし、互いに関わって学んでいく、他者の理解に努めて、その人のよさを学んでいくよう日々実践されていると思う。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・ 学年全体はもちろんだが、達成度が低い児童への結果と分析がされている。 ・ 全教職員による声かけで児童が自信を持つことを確信し、いっそう児童へのふれあいを大切にしようとしている。 ・ 将来の夢が目標となる児童がどれくらいいるのか。身近なところから、新聞、テレビ、書物等々から、いろいろな仕事、働くということを考え、人間力をつけていってほしいと思う。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・ 適切に行われている。 ・ 課題をしぼり、さらに意欲的に継続して取り組む改善策が立てられている。特に個に応じた改善策が立てられている。
その他		・ 1月28日の参観では、どの学級も落ち着いていて、目標を達成するための授業が行われていると感じた。 ・ 学校全体での取組の成果であると感じる。よくやっている。取り組んでいる。 ・ 環境整備が大変よくされている。(掲示、清掃等) ・ 校長の教育に対する情熱を強く感じた。(校長だより、日々の児童への接し方等で) ・ 管理職の指導力と、教職員が自覚して力をつけていく体制の学校経営がされていると感じた。(授業参観して、評価委員会の各担当の発表で、表情などで) ・ タブレットをうまく活用しているが、適切な情報機器の使い方を指導していく必要がある。 ・ 子供たちを「自分が好き」という子にするには、まず先生方が「自分が好き」になって自分の好きなことを見つけ、心を豊かにしていってほしい。 ・ 踏切、坂道、階段、車が多く行きかう道路、干潮時の二河川など危険箇所が多い地域だと思う。地域のあった自分の命を自分で守る指導や訓練がされている。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・ タブレットを主体的な学びに向け適切に使用していきながら、情報の取り扱い方についても系統的に学習させる。 ・ キュビナのワークブック機能の活用を今後も継続していく。個別最適な学びのためにも、積極的に自学へ結びつけるようにする。 ・ 児童一人一人の実態や思いに寄り添う対応を今後も続けていく。 ・ 児童の夢を将来へつなげるために、様々な時・場・物・事を活用して自分の生き方に活かせるようにしていく。 ・ 教職員も心豊かに生活できるようにするために、業務改善も含め一人一人大切にしたい職場環境づくりに努める。 ・ 地域の災害について知り、いざというときに行動できる実践的な防災教育を進め、「自分の命は自分で守る力」を育成する。
--------------------	---